

## 代表挨拶・Message

CEPA日本の誕生は、2010年に名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」での行動に遡ります。名古屋国際会議場の白鳥ホールで行われた、「コミュニケーション、教育、普及啓発（CEPA）」の作業部会でNGO唯一のスピーチを実現し、決議文の修正に成功しました。「国連生物多様性の10年に取められた目標を利用し普及啓発、教育を促進するためのCEPA活動の継続と、更なる向上を締約国に求める。」など、多くの方々の議論の成果であるスピーチによって追記された文章は、各所に散りばめられています。しかし、決議文は使わなければただの紙切れとなってしまいます。

2011年の冬、生物多様性条約事務局とCEPA活動の推進に関する覚書(MOU)を交わしました。これを踏まえCEPA日本は、生物多様性条約に基づく活動の枠を越えて、さまざまな地域で「伝承」されてきた暮らしの知恵に学び、自然に支えられ災害にも強い地域作りに向け、政府、自治体、企業、学術研究機関、地域の方々とのつながりと共感を深めながら、新たな価値も創造する現代の「伝承者」を目指して活動しています。

川廷 昌弘

## 役員一覧

- 会長** 堂本暁子（元千葉県知事 / 生物多様性 JAPAN）
- 代表** 川廷昌弘
- 理事** 上田壮一 川上典子 坂田昌子 佐藤健一 佐藤正弘  
服部徹 水野雅弘 森良 宮本育昌
- 事務局長** イノウエヨシオ
- 事務局** 木村江美
- 監事** 浅見 哲（税理士法人魁代表社員）  
星野智子（環境パートナーシップ会議副代表理事）
- アドバイザー** 阿部 治（立教大学教授 ESD 研究センター長）  
あん・まくどなど（上智大学教授）  
石田秀輝（東北大学教授）  
上村英明（恵泉女学園大学教授）  
香坂 玲（金沢大学准教授）  
武内和彦（東京大学教授）  
中静 透（東北大学教授）  
林 希一郎（名古屋大学エコトピア科学研究所教授）  
古沢広祐（國學院大學教授）  
武者小路公秀（大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター所長）  
吉田正人（筑波大学教授）  
涌井史郎（東京都市大学教授）
- 特別会員** 岩瀬成紀（NPO 法人田んぼ）  
川嶋 直（キープ協会）  
辻 淳夫（藤前干潟を守る会）  
中野民夫（ワークショップ企画プロデューサー）  
広瀬敏通（日本エコツーリズムセンター）  
Brendan Barrett（国連大学メディアスタジオ）
- セバリスト記者** 山田耕二

## ジャパニーズ エコロジー

日本人は1000年以上も昔から自然を崇拝し畏敬の念を払いながら、自然と共生してきました。欧米の自然管理とは異なる暮らしで生態系を守り続けてきた独自のエコロジー思想の発信を試みます。

## グリーン レジリエンス

明治以降の開発などを経験し、環境保全が浸透。しかし、ハードに頼る震災復興は進みます。本来、日本はハードとソフトによるしなやかな自然との向き合いで豊かさを維持してきました。改めて全国的事例から学びます。

## グリーン コンシューマー

何かの商品を買うことは、それが作られた過程で使われた自然と一緒に買うことと同じではないでしょうか？ゆえに私たち一人一人が注意深く商品を選択することが生物多様性の保全につながります。



## 熊楠を思ふ

南方熊楠は、明治時代に国境をひらりと越え人並みはずれた植物学者であり、民俗学の創始者であり、自然保護運動の先覚者であり、無位無冠でありながらご進講を行い天皇の詩にも名前を記され、森羅万象に挑んだ知の巨人。生物多様性という概念の広さと深さを教えてくれる先人として、熊楠の生誕150年を機に想いを馳せたいと思います。



## グリーン復興プロジェクト

東日本大震災を受け、自然と共生する形での復興活動を支援するネットワークとして東北大学生命科学研究科とともに立ち上げました。研究者・環境省・NGO・企業などのマルチステークホルダーで定期的に会合を繰り返し、活動の今を共有しています。その成果は次の震災に備えるための手引きとして出版します。



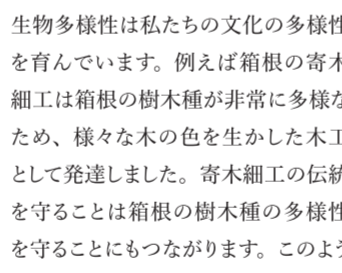
## アースミーティング

日本のエコジストの先駆けである南方熊楠によって守られ、その精神が今も息づく場所が多く点在する紀伊半島。分水嶺に囲まれ、流域全体が俯瞰でき、第一次産業が盛んな自治体である南三陸。自然に対する畏敬の念を感じながら、未来世代に伝承する企画、フィールド・ミュージアム構想、体験プログラムなど練り上げる場として連携していきます。

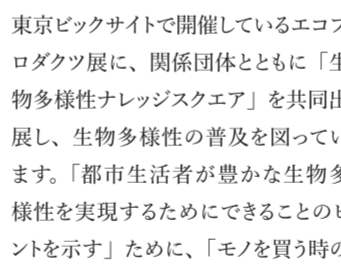


## 生物多様性アクション大賞

「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発活動として、個人・団体が全国各地で取り組む事例を5つのアクション「たべよう」「ふれよう」「つたえよう」「まもろう」「えらぼう」に基づいて公募し、表彰する「生物多様性アクション大賞」を2013年度から実施しています。2015年度は本賞のアンバサダーにサカナくんが就任しました。



## いきものを育む「しなじな」



## 買い物で持続する社会に



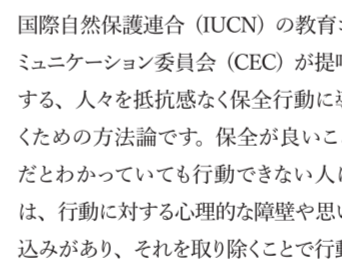
## 国際会議へ

2010年の生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された愛知目標。その現状は地球規模生物多様性概況第4版において「進捗はしているものの達成には不十分」と評価されました。国際会議の場において日本独自の取り組みを積極的に発信し、他国の取り組みに学び、愛知目標達成に向けてさらに多くの英知を集結します。



## 地域ワークショップ

地域の団体・個人が行っている生物多様性保全につながる活動を5アクションで整理し、より良いコミュニケーションに向けた表現ができるようにするためのワークショップを行っています。生物多様性を活かした地域づくりにそれらの活動がステップアップできるよう、さらにパワーアップしたワークショップの実施を進めます。



## 保全心理学へ



こくねんいんかい ねんにぜんいんかい  
国連生物多様性の10年日本委員会

せいぶつたようせい まもる ためしに 私たちができるアクション!

# MY行動宣言

せいぶつたようせいとは、たくさん生きものがつながりあって暮らしていること。せいぶつたようせいを守るためには、まずは暮らしの中で、生きものとのつながりを感ずることが大切。水や空気はもちろん、食べものや着るものの材料、木料、紙の原料など、いろいろな生きもののおかげで、私たちは生きています。

次の5つの中からあなたにできることを選んでMY行動宣言しましょう。生物多様性の眼みを受け継がれるように、1人1人が「MY行動宣言」をして、今日から行動しましょう!

**Act 1** 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。

**Act 2** 自然の中へ出かけ、動物園・水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。

**Act 3** 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。

**Act 4** 生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。

**Act 5** エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。

必ずはさみを持って、おにぎりに貼ってください

お住まいの都道府県 都道府県

性別  男  女

年齢  10代未満  10代  20代  30代  40代  50代  60代  70代以上

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）の普及啓発ツール。「生物多様性国家戦略2012-2020」にも記載された「MY行動宣言5つのアクション」は、九州大学矢原徹一教授のお話しのヒントを得てCEPAジャパンのメンバーが開発した「5ACTIONS!!!!」と、環境省の「MY行動宣言」を統合するよう提案したもの。

CEPA日本はUNDB-JのIki・Tomo推進事務局として活用を進めています。

## CEPA日本とは?

暮らしと国際条約をつなぐため、COP10での活動成果を礎に、環境コミュニケーションのスペシャリストが集い2011年5月に設立しました。生物多様性という外来語が、古来から日本人が大切にしてきた、自然と共生する暮らしの基盤である事に気づいてもらうため、「もっと身近に、生物多様性。」をスローガンに、締約国の義務である生物多様性条約第13条「公衆のための教育及び啓発」のキーワード「CEPA」を推進しています。

※CEPA=Communication, Education and Public Awareness（コミュニケーション・教育・普及啓発）

